

# た な か み 山

第 1 号 行  
発 行 民 具  
桐 生 民 具  
ク ラ ブ

## 二十一世紀わが町づくりの

上田自治連合会長 山本俊一

「二十一世紀のわが町づくり」という題をもらって、まず私は、二十一世紀にはこの世に生きていないと思います。

しかし、こういう方向に行くだろうという予測だけをしておきたいと思います。

(一) 人間の個人主義が徹底して、

家族生活の崩壊が始まると思います。

(二) 物質文明の発展により、人間が画一化されると思います。

(三) 反面精神文化による宗教の乱立や宗教戦争が、おこりうると思います。

思いつくまま。また、私の独断により、このような二十一世紀には何の希望もせず、現世をおさらばする気持ちです。

しかし、二十一世紀を生きて行く若者にとっては、こういう社会にならないような潤いのある人間愛に生きる社会をつくって欲しいとこいねがいます。

### 二十一世紀

#### 上田上学区の想像

- 一、人口は、約一万五千人。
- 世帯数は、四千五百戸以上。
- 二、小学校二校。中学校一校。
- 三、大型スーパー一店舗。

さらに飛鳥団地に、若干の商店街ができると思います。

四、大戸川ダムにより、高速道路湖南―青山線が開通すると思えます。

(瀬田東―上野市)

五、旧大鳥居町には、人工湖水ができ、一大遊園地となつていくと思います。

六、堂町の汚水処理場周辺も一大公園となつて「憩いの場」となつていくと思います。

### 発刊にあたって

桐生民具クラブ

代表 山本文良

兎追いしかの山  
こぶな釣りしこの川  
夢は今もめぐりて  
忘れがたき故郷

今日も正休保育園から、この「故郷」のメロディがチャイムを通じて聞こえてきます。

人は、誰でも故郷をもっています。そして愛しています。

私たちの桐生町は、大津市の米作地帯としては、トップクラスです。

まず、圃場整備の完成と機械化による農作業の著しい能率アップ。

次に、上・下水道完備により食生活や環境衛生の大改善がなされつつあります。

今の時代は、お金があれば何でも手にはいる黄金時代です。

しかし、今日の物質文明に酔って人の心は、どんどん変わってはいないでしょうか。

何物にもかえがたいこの故郷。それは、先人の血と汗と涙。そして知恵の結晶であり、私たちの宝物なのです。

また、欲しいものは何でも買えますが、ここにも直接目に見えない陰の人たちの力があるからです。

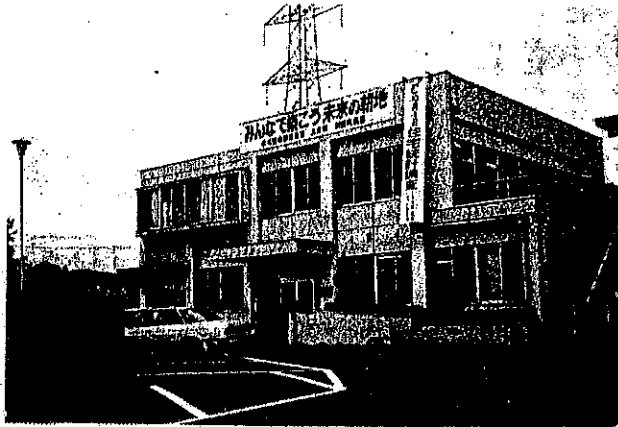
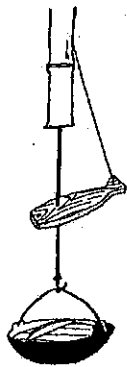
自己を信じて努力することは、最高に尊いことです。

しかし、感謝・報恩・協力は、絶対おろそかにしてはならないものだと思います。

故郷をより広く、より深く知り、愛して、明日の理想郷をつくりあげていくのは、私たちの義務です。

この故郷新聞「たなかみ山」が、みなさま方の何らかのお役に立てばと念願しております。

どうかよろしくお願いします。





# 民具・農機具を通じて 先人のご苦勞を偲ぶ

山本 三郎

私の二十三歳は、満洲関東軍から本土防衛のため大阪尼崎に帰国。のち福島で終戦となる。

復員命令が出て故郷へむかう。これだけ書くと、とても楽しい旅だと思われようが、実は、地獄の三丁目。

山科や逢坂山のトンネルを蒸気機関車に引かれた石炭輸送用の無蓋車にすし詰め。

トンネルに入ったとたん、まっ暗となり、さらに煙と轟音で耳はうなり口、鼻を開けていようものなら窒息死は確実。

明るみに出たら、白いのは目と歯。みんなまっ黒けのお化け集団。

草津駅から桐生まで歩いて四十分。わが家の戸を叩き、両親を起こしたのは午前五時少し前。

母親は、びっくり。私の顔を何度も何度も見なおす。満洲にいるはずの息子が、まさか目の前にいるとは、信じ切れないようす。当時、軍隊の行動はすべて秘密である。

突然の親との対面で、話はだんだんエスカレート。

兄二人の戦死。後継者の問題……

のどん底。

草刈りは鎌で約一か月。牛の飼育はもちろん。三百六十五日朝星夜星の血と汗と涙の重労働の連続。

今は、農作業もすっかり機械化さへ躍んだのだが、両親の説得により腰をすえて後継者としての決心をした。

しかし一年後、母親の心境は、二人の兄を亡くした鬱と私が帰ったこととの嬉しさ躁が重なり、躁鬱病に倒れ六十一歳でこの世を去った。

この頃までは、世の中全体が苦勞のどん底。私たちが桐生に人が住み始めたのは、およそ五、六百年前と推定されています。

## 古き時代の証 珪化木・炭化流木発見

古川 三右衛門

私たちの珪化木は、町内の文化祭に出展したことがありますので、ご存知の方もあると思います。

しかし、後者は、直径三十センチ余り、長さ二メートルを超す亜炭の大木です。

大ききの大小は問題ではなく、二つとも貴重な資料であります。

この二つの発見から、約一万年の歳月が流れていたこと。

人は住んでいなくても、草木は茂り水害が繰り返かえされていたことが解明されたのです。

前者は、直径三センチ余り。長さもだいたい同じくらい小さなもの

村の姿をそのまま形に残ればと思ひ、立体農村風景建設をめざしております。

## 消えた

### アングリ小屋

山本文良

おじいちゃん おばあちゃん

お父さん お母さん

主人 そして私も

あのアングリ小屋で

遠い田んぼの仮りの家

肥料の倉庫

お昼の食事一服も

ちよつと鏡も見たかった

赤ちゃん おふごで

泣くやら 遊ぶやら

父ちゃん 母ちゃん

田んぼ中 田んぼなか

時々牛の 子守り歌

犬もそばに いてくれた

あの野小屋 アングリは

今はもう 今はもう

消えてしまった

## 俳句

桐生つくし会代表 清水 馨

里の春呼ぶかに獅子の笛ながれ千鳥

きらめきて春を流して川来る 里人

しなやかにたれて人呼ぶ藤の花 清雪

住む人もなき古寺や菜種梅雨白兔

### 「逆さ観音」

「創作」 山本文良

昔むかし。ザラうと昔のその昔。ボカ／＼と暖かい春の日。

山仕事に行った二人の男がいた。

「おい！ お天道さんが、いつの間にかやらの頭の上へきているぞ。」

「さあ。飯にしようか。」

「ほんまや。じゃ、くおうか。」

と、仕事の手を休め、空を見ながら汗をふく。

弁当を食べ終わった二人。

「時にお前。仏さんは、ばちをあてると思ukai。」

「何を急に言うんじや。『さわらぬ仏にたたりなし。参らぬ神にばちあたらす』だぞ。」

「そんな、ばかなことがあるか。」

「お前、天気がよすぎて、頭がおかしいのと違うか。」

「そんなら、あそこの石の仏さん。転がしてみようか。」

もし、ばちがあたってもこのおれじゃ。見てろ！」

「あほ／＼。止めとけ。死んでも、おち知らんぞ。ばか！」

「あの仏さん。ばちをあてやがったら、こなごなに割ってしもたるわい。」

と、言いながら、鉄棒を持ってきて、ぐい。ぐい。と動かし始めた。

やがて気合一発。

「いち。にいのさん。」

峰の石仏は、大きく／＼音をたて

草木をなぎ倒して落ちていった。

「そら／＼えらいことや。ばちがあたるぞ。」

と言ったかと思うと、もうそこには姿がなかった。

もう一人の男。さっきの強気は、どこへやら。

それから、誰言うもなく「逆さ観音」と名づけられたとき。

思い出

### 大川(草津川)出水

山本三郎

昭和六年。私は、上田上尋常高等小学校の二年生。もちろん、桐生分

教場に通っていた。

今の草津川(大川)には、橋が一つも架かっていなかった。

ちよつと大雨でも降ると忽ち大水

が流れ大騒ぎとなる。

だが、反面、お天気が続くと、かなりとした広い砂場ができる。

誰が考えたのか、近くの農家が家畜(牛)用の生草をひろげて乾かし、干場に早変わりする。

また、ある時は、町内の年中行事

の一つ、映画会(活動写真)が催された。

子ども達は、スクリーンの裏側に

まわってわいわいがやがや。最高の

場面がでると拍手かっさい。

少しまわり道をしたが、分教場で

の思い出にかえる。

授業中、突然空模様が怪しくなり

大粒の雨が降り出す。

ただでさえ薄暗い分教場が一瞬に

して夕方になり、廊下はビシヨヌレ。

ガラス障子は、パチパチと音をたて

る。

子ども達は、すぐ騒ぎ出す。

「静かにして、雨は必ず止むから

待っていなさい。」と先生の声。

どしや降り約一時間半。

分教場は、山の中腹なので大川が

よく見える。

水が増すまでに早く帰らなきあと

先生にせきたてる。

大川の堤防まで来ると、川はすで

に増水。着物の裾をまくり上げ、帯

にはさんで川を渡り始める。

泥水。増水。急流。目がまわりそ

う。それでも、渡らなくては家へ帰

れない。

川の中程までくると、深みに足を

とられ、忽ち体半分水につかる。

危い／＼と、もがいて後ずさり。

今度は、足の裏の砂がどんどん掘れ、

島仕事おえてヤレヤレ冷茶飲み涼人

糠床のなれぬまんまに初茄子酒人

明日なき紅葉の山は今日を映え和楽

賀状届て疎遠の友の無事を知り素人

じつと立っていられない。

目が廻り出す。よろける。パンツ

もぬれだす。

あわやと思つた時、肩から掛けて

いたカバンの紐が杭に引つかかって

命びるい。

近所の人達や親に手を引かれて渡

る姿。田んぼの仕事を中止して大急

ぎで帰ってくる大人たち。

そうこうしているうちに、本校か

らも兄や姉が勉強をやめて帰ってくる。

「桐生はよいなあ。ちよつとひど

い雨になると、勉強止めて帰れる！」

と、うらやましがられたが、こちら

は必死。

昭和二十一年ごろ、丸又の隣りに

木造大橋が架かり、二十三年ごろか

らチラホラと堰堤ができてきた。

今では、木造大橋もコンクリート

橋に変わり、新しく「桐生新橋」も

できた。

思い出の分教場は山をおり、現在

の保育園となつて、子ども達はスク

ールパスで本校に通うようになった。

悲しかったこと。恐ろしかったこと。

今は、みんな楽しい夢物語です。



# ソウル五輪(ボート) コーチ わが町から!

山本文良

ソウルオリンピック第九日目の九月二十五日(日)

漢江レガッタコースで開かれていたボート競技もいよいよ最終日を迎え、男女七種目の決勝が行なわれた。

同日午後一時すぎ、二チャンネルでオリンピックの放映を見ていた。突然「女子エイト」の競技が目に入ってきた。

号砲一発!。各艇一斉にスタート。と思った瞬間、急に、大きな旗が何回も左右に振られた。

あれっ?  
フライングだ。

実況(アナ)

「ボートにも、フライングがあるのですか。」

解説者

「全くないとは言えません。」  
各ボート。再びスタートの位置に着く。

オール・ゴーと号砲一発!  
今度は一斉にスタート。力漕力漕

また力漕。各艇必死の力漕が続く。

それをバックに突然文字放映がな

された。

「実況、〇〇〇〇。解説、古川宗寿。」

そばに見ていた妻が、急に大声で、「惣七さんの息子さんや!」と叫ぶ。

なに?惣七さんの……とテレビにくらい入る。今度はメモを思いつき、鉛筆・紙を取り走り書きする。

古川宗までは覚えていたが、宗寿さんの寿は「ことぶき」か。

「うん」と答が返ってきた。この桐生町から、オリンピック競技の解説者が出た。

やった!やった!。金メダルだ。ご両親や奥様から、ご主人のこと

そろばん

## 割の算の九々(上)

寺小屋時代は読み、書き、そろばん。今は、電卓。習わなくてもボタンを押せば答えの出る時代。

でも、先人はすばらしい。「割り算の九々」ご存知ですか。今日は、それをご紹介します。

- 二一 天作の五
- 三二 二進が一十
- 三三 三十一
- 三二 六十二

についていろいろ話を聞かせてもらった。

解説だけでなく、ボート選手のコーチもされているとのこと。それは、それこそ、万々歳である。これは、ひとりご主人だけの名譽でなく、古川家いや桐生町、まだまだ大津市の名譽である。

無口なお父さんの目にも涙が光り私も再び胸が熱くなった。  
ご主人の努力は私たちの想像外だらうが、家でじっとこらえ守っていて下さるご両親や奥さんのご苦労にも頭が下がる思いがした。

ご主人。ご苦労様。ご苦労さま。ご両親、奥様

ありがとうございます。早く帰って、翼を休めて下さい。ご苦労様でした。ご苦労様でした。

三進が一十

四一 二十二

四二 天作の五

四三 七十二

四四 四進が一十

五一 加一

五二 加二

- 七五 七十一
- 七六 八十四
- 七進が一十
- 八一 下加の二
- 八二 下加の四
- 八三 下加の六
- 八四 天作の五
- 八五 六十二
- 八六 七十四
- 八七 八十六
- 八進が一十
- 九一 下加の一
- 九二 下加の二
- 九三 下加の三
- 九四 下加の四
- 九五 下加の五
- 九六 下加の六
- 九七 下加の七
- 九八 下加の八
- 九進が一十

## お願い

民具収集にご協力を

古くて捨てようと思っておられる家庭用品・衣類・農林業や信仰などの道具がありましたら、「ふる里資料館」で保存させていただきます。ご連絡下さい。

山本三郎 ④〇六〇七

有線五七五八

## あとがき

お世話になっっているみなさんへお礼の意味で、ふるさと新聞「たなかみ山」を作りました。年三回発行を目標にがんばります。

ご感想やご意見。ご投稿よろしくお願ひします。

山本文良 ④〇〇七七

有線五六七八